

役者見立東海道五十三驛 パネル展

「役者見立東海道五十三驛」は三代歌川豊国の作品です。構図は手前に役者の姿、背景には東海道五十三次の風景画が描かれています。

豊国が最も円熟した時期に描かれた役者絵で、当時人気の役者を各宿場に因んだ物語や風俗に見立て、背景に名所を配したシリーズ作品です。

本展では、三代歌川豊国が描いた「役者見立東海道五十三驛」（出版期間※1852年2月～翌年1月）の内、愛知県から、京都府までの宿場を中心に20点を集めました。緑区の鳴海を描いた1枚はカウンター前、一般書展示コーナーに展示しています。浮世絵に関する図書も紹介していますのでぜひ、ご覧ください。

※1852年：嘉永5年